

## 式辞

新入生の皆さん、そして大学院へ進学された皆さん、ご入学、ご進学おめでとうございます。キャンパスの桜も皆さんのご入学を待っていたかのように咲き誇るこの佳き日に、大谷篤子名誉学長さま、芝原玄記理事長・学園長さまのご臨席のもと、ご来賓の皆さまにもご列席いただき、2025 年度入学式を無事挙行出来ますことは、教職員一同にとりまして大きな喜びでございます。

またご家族の皆様、入学式にご列席いただき有難うございます。長年慈しみ、その成長を支えてこられましたお嬢様の京都女子大学へのご入学を、大学を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。

さて新入生の皆さんは、今、明日から始まる新しい大学生活に期待と、そして少しばかりの不安で胸を膨らませておられることと思います。皆さまを京都女子大学の一員としてお迎えするにあたり、まず本学の前身である京都女子高等専門学校設立に尽力した3人の女性たちについてお話ししたいと思います。

### スライド1

京都女子高等専門学校は1920年、今から105年前の4月にこの地でスタートしました。京都女子高等専門学校の設置に情熱を燃やし、尽力したのは3人の女性、甲斐和里子、大谷篤子、九條武子です。

大谷篤子氏は、仏教の平等思想に根差して「男女平等機会均等」な社会の実現とその実現のため女性の高等教育機関の設置を念願されました。

### スライド2

残念ながら大谷篤子氏は1911年28歳の若さで夭折されましたが、その1周年の1912年に、篤子氏の遺志を継いで九條武子氏が「女子大学設立趣意書」（注1）を仏教婦人会に公表し、それを受けて全国30万人の会員が設立運動を展開しました。これが本学設立の契機となっています。

このように皆さんが学ばれる大学が、男女平等を願う女性たちの情熱から設立された学校であることを誇りとして、彼女たちの願いを実現する人間となることを心に刻み、4年間の勉学に励んでいただきたいと思います。

### スライド3

そして京都女子大学は、2020年、創基100年を期して第2期グランドビジョン（注2）に本学の教育理念として「ジェンダー平等の実現に貢献する女性の養成」を掲げました。

### スライド4

大谷篤子氏ら女性たちが「男女平等機会均等」を願ってから110年余りが経ったにもかかわらず、ジェンダーギャップ指数（注3）に示されるように、日本は男女の格差が世界から見ても大きく開いた国であるからです。

ところで皆さんは、日本社会がとりわけ男性と女性の格差が大きい国だと実感されることは少なかったのではないのでしょうか。しかし、例えば小学校から高等学校まで、校長先生や教頭先生は女性だったのでしょうか。生徒会長やPTAの会長はいかがでしたか。皆さんの住んでいる町の市長さんや知事はどうでしょうか。会社の社長さんやお医者さん、といわれると男性、会社の受付や看護師さんは女性をイメージされるのではないのでしょうか。

### スライド5

このように「ジェンダー」という概念で社会を見渡してみると、男性と女性によって役割が分かれていること、しかも重要な仕事は男性、補助的な仕事は女性に分かれているという事実が気が付かれるのではないのでしょうか。

### スライド6

このことがもたらす問題点はどこにあるのでしょうか。SDGs 17の目標については皆さんも良くご存じだと思います。その中の第5番目の目標に、「ジェンダー平等の実現」が掲げられています。国連は、この第5の目標は、「他の全ての目標達成に死活的に重要」と位置づけています。すなわち、社会が持続的に発展するには、何よりもジェンダー平等の実現が重要だと捉えているといえます。

### スライド7

例えば、SDGsの第1の目標である「貧困をなくそう」を例に考えてみましょう。現在日本の働く人の45%は女性です（注4）。しかしその給与総額をみると、男性と女性の格差は80兆円にもおよびます。

### スライド8

このような女性の給与の低さは、女性の貧困の原因となります。この表からお分かりいただけるように、母子世帯の平均年間収入は272万円です。その原因は、ひとり親になる前の非就業率、無職の割合の高さや非正規雇用の比率の高さにあります。そして母子世帯の貧困は子どもの貧困に直結します。このように、世帯の稼ぎ手は男

性、女性は家庭で家事育児という性別による役割の固定化が「貧困」に大きく影響しています。

#### スライド9

ところでこのような性別役割分業は、文化や人々の意識に深く浸透しています。特に日本の文化は性別役割分業を根深く内包しているといえます。例えば、日本語は「女ことば」「男ことば」をもつ、世界でも稀にみる言語です。

例えば「私」は英語では「I」、仏語は「je」、独語は「ich」と一つですが、日本語では「僕」や「おれ」は男性、女性は「わたし」や「あたし」、と性別によって区別されています。すなわち日本社会では、物心ついた幼児期から女の子は女性語を、男の子は男性語を使う、と男性と女性の区別を修得していくのです。しかも女性語には、命令や指示語、あるいは喧嘩言葉は馴染みません。「お前、○○しろよ」は男性は用いても、女性の場合は「あなた、○○してもらえますか」という要望や依頼の形式になります。命令や指示を下す役割を女性が担うことを、日本語は前提にしていないういえるかもしれません。このような文化の中で育った女性たちは、無意識の内に「わきまえた女性」という役割を身につけ、知らず知らずのうちに自分を抑制する行動規範を身につけていきます。

#### スライド10

しかし、少なくとも京都女子大学は、このような行動規範の縛りから解き放たれることを皆さんに期待し、そのためのチャンスを提供し、しっかりと鍛えさせていただきます。

そして何より女性ばかりの環境は、リーダー役もサポート役も全てを女性が担います。女性ばかりの環境が醸し出す心理的安心感の中で、のびやかに行動し、多様な経験を積むことが出来るのです。

このために、1年生から4年生まで少人数の演習科目を全学部で展開しています。授業以外にも、例えば、学生の主体的活動を支援する「らしつよチャレンジ」、あるいはジェンダー教育研究所の学生リーダーの活動、さらにはクラブやサークル活動、あるいは大学祭実行委員会など、正規外の活動でも皆さんが力を発揮し、成長する機会を用意しています。

皆さんの中には、選んだ大学が結果として女子大学だったという方もおられると思います。しかしせっかく女子大学に入学されたからには、女子大学の教育の利点を理

解し、これらの機会をぜひ最大限に活用して、大いに成長してください。そして大谷 篤子の「チャレンジする勇気と知性、京女 Spirits」を身につけてください。

そしてもう1つ、「概念を知る」ということの重要性をお伝えしておきたいと思います。先ほどからお話しているように、「ジェンダー」という概念で世界を見てみると、これまで気が付かなかった事実が見えてきましたね。すなわち「概念」は社会を照らすサーチライトです。概念を獲得することによって様々な現実を私たちは知ることが出来るのです。もう1歩進めていけば、知識は皆さんがこれから生きていかれる道を照らす光であり、武器にもなります。学科の専門の学びはもとより、幅広い知識をどん欲に獲得していただきたいと思います。今は何に役立つかわからない知識も、長い人生のどこかでどんな役に立つかわかりません。知識は、荷物になるわけでもなく誰に取られるものでもありません。しかし確実にあなたという人格を豊かにしてくれます。そして本学の図書館はきっとその大きな手助けをしてくれるでしょう。図書館は、蔵書数80万冊、そのうちの30万冊は開架図書です。さらにデジタル情報も豊富に収集されています。皆さんの前には、まさに広大な「知のワンダーランド」が広がっています。

皆さんの京都女子大学へのご入学を心より歓迎いたします。そして女子大学だからこそ得られる教育を通して、実り豊かな大学生活を過ごされますことを願しまして入学式の式辞といたします。

2025年4月2日

京都女子大学 学長 竹安栄子

注1：B校舎前に記念碑が設置されています。

注2：本学ホームページを参照してください。

注3：世界経済フォーラム、『ジェンダーギャップレポート2024』

注4：総務省「労働力調査」